

上級の新聞クラス「イラク自衛隊派遣」

(2004年2月12日実施)

2月12日に行われた公開授業は「新聞の記事を使って話す」というもので、対象は卒業前の上級クラスの学生でした。2年前の4月に日本に来て、T I Jで学び、進学先もほとんどの学生が決まったという卒業を前にした時期の公開授業で、ある意味ではT I Jでの勉強の集大成のようなものでした。

テーマ

臓器移植などいわゆる普遍的なテーマにしようかとも思いましたが、考えた末、テレビなどでもよく討論されている「イラク自衛隊派遣に賛成か、反対か」というテーマを選ぶことにしました。普通 日本語の授業では政治的な問題は敬遠しがちですが、日本でこれだけ広く議論されていることを取り上げないのはどうかという思いもあり、また、日本へ来て年月がたち、彼らも多角的な視野をもてるようになってはいるはずだと信じていたので、あえて、このテーマを選びました。事前にこのことについて話し合うと当日新鮮さが失われると思い、「新聞の記事を使って、来ていただいた日本人の方と自由に話す授業」とだけ言ってありました。

材料に使った新聞記事

イラク自衛隊派遣に賛成か反対かという世論調査の記事

投書欄より賛成、反対の意見を一つずつ

本来望まれる支援とは何か、について2人の識者の意見

亡くなられた外務省、奥参事官のインターネット掲載の「イラク便り」からの抜粋

授業の進め方

- (1) 新聞記事 を読んで、前はどうだったのか、今はどうなのか、どうして変わってきたのか、などを話す
- (2) 新聞記事 を読んで、2人の意見やそれについてどう思うか話す
- (3) 新聞記事 を読んで、イラク支援の望ましい形とはどういうものか、自衛隊が行くことでできることは何か、について話す
- (4) を読み(時間がなく、教師が口頭でさっと読んだだけ)、何もしていないことが許されるかどうか話す
- (5) 一つのグループに学生が3・4人、日本人の方を入れて、6・7人になるよう別れて、自衛隊派遣について自由に話す

感想

日本人の方がたくさん来てくださったので、結果的に一つのグループの人数が多くなり、自由に話す、ということが十分には行われなかったかもしれません。学生たちが初めて会う日本人の方たちにどういう態度で接するのか、きちんと自分の意見を伝えられるのかと

少し心配していましたが、普通の授業とは違い（普段は授業中に「眠い」とか「疲れた」とか言っている学生もいるのです）自分の考えをきちんと話している姿に感銘しました。2年目に入ってからビデオや新聞記事にたくさん接することで社会問題に関心をもってもらい、自分なりの考えをもたせることを目標に様々な試みを行ってきましたので、その目標が達成されていることが実感でき、集大成として満足できるものでした。

(市川さゆり)